



<報道発表資料>

令和 8 年 1 月 29 日

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

令和 7 年度京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞の 被表彰者の決定及び表彰式の開催

京都市では、京都市出身者又は京都市内において活発な文化芸術活動を行い、将来を嘱望される方々に「京都市芸術新人賞」を、また、同じく京都市内で活動を行い、新人の育成又は文化芸術に係る活動環境の向上に多大の功労があった方々に「京都市芸術振興賞」を授与し、その功績を称えています。

この度、令和 7 年度の被表彰者を決定し、2 月 5 日（木）に表彰式を行います。

なお、本制度は、昭和 50 年度に創設し、令和 6 年度までに京都市芸術新人賞として 286 名の方々を、京都市芸術振興賞として 161 名の方々を表彰しています。

【被表彰者（敬称略・五十音順）】

● 京都市芸術新人賞（13名）

いけのぼう	せんしゅう	池坊 専宗	(華道・写真)
え ど	せいいちろう	江戸 聖一郎	(洋楽(フルート))
くろかわ	がく	黒川 岳	(現代美術・彫刻)
しんの	ひろし	新野 洋	(現代美術)
せい け	か ず と	清家 一斗	(映画(殺陣))
た ぐ ち		田口 かおり	(学術(保存修復学))
たてかわ	きっしょう	立川 吉笑	(落語)
はたけやま	う し お	畠山 丑雄	(文学(小説))
はやし	き え も ん	林 喜右衛門(十四世)	(能楽)
はら	まり ひ こ	原 摩利彦	(現代音楽)
むらまつ	としゆき	村松 稔之	(洋楽(声楽))
やまべ	あんな	山部 杏奈	(日本画)
やまもと	ゆうきょう	山本 雄教	(日本画・現代美術)

● 京都市芸術振興賞（9名）

あかし 明石	よしなか 好中	(洋楽（指揮))
おおた 太田	とおる 達	(食文化)
おおとも 大友	なおと 直人	(洋楽（指揮))
かみむら 上村	きちや 吉弥（六代目）	(歌舞伎)
しげやま 茂山	あきら あきら	(能楽)
すぎうら 杉浦	きょうこ 京子	(花街文化)
ひろい	のぶこ ひろい のぶこ	(染織)
ほそかわ 細川	しゅうへい 周平	(学術（音楽学))
みずしま 水島	ひろのり 博範	(芸術振興（音楽))

【表彰式概要】

● 日時 令和8年2月5日（木）

1部：【京都市芸術振興賞】午後1時～

2部：【京都市芸術新人賞】午後2時45分～

● 場所 京都市役所 本庁舎4階 正庁の間

（〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地）

● 出席者

・被表彰者及び同伴者

・主催者 松井 孝治 京都市長

吉田 良比呂 京都市副市長

平賀 徹也 京都市文化芸術政策監

・来賓 下村 あきら 京都市会議長

吉田 孝雄 京都市会副議長

加藤 昌洋 京都市会文教はぐくみ委員会委員長

もりもと 英靖 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長

増成 竜治 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長

篠原 資明 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表

● 次第（1部・2部共通）

開会

来賓紹介

表彰状授与

挨拶 松井 孝治 京都市長

祝辞 下村 あきら 京都市会議長

祝辞・功績紹介 篠原 資明 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表

被表彰者代表謝辞

閉会（閉会後、記念撮影）

<お問合せ先>

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

電話：075-222-3119

池坊 専宗

いけのぼう せんしゅう (34歳)
華道・写真／京都市中京区



【功績】

華道家元池坊の次期家元・池坊専好氏の長男として生まれる。幼少からいけばなに触れ、東京大学法学部卒業後、本格的に華道を学ぶ。「光を感じ、草木の命をまなざすこと」を信条としていけばなの実践を積み重ね、目の前の花と真摯に向かい、草木だけでなく周りの空間をも取り込んだ作品は見る者的心を魅了している。また、写真家として的一面も持ち、いけばなにも通じる感性や独特的視点から、レンズ越しに見える世界で心が動いた瞬間を丁寧に切り取った写真は、自身が見つめる命や日々の営みが写し出されており、幅広い世代から高く評価されている。さらには、講座・講演活動や文筆、インスタレーション、伊勢神宮の献華奉仕など、様々な形で華道の魅力発信や普及活動に取り組む一方で、今後25年間の京都市政の基本方針である「京都基本構想」の策定にも携わるなど、多岐にわたる活動を展開している。

華道家・写真家

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・幼少から華道を学ぶ
- ・京都教育大学附属高等学校卒業
- ・東京大学法学部卒業時に成績優秀として「卓越」を受賞

＜現在＞

- ・池坊青年部代表
- ・東京国立博物館アンバサダー
- ・花の甲子園審査員
- ・KYOTO CRAFTS and DESIGN COMPETITION 審査員

＜主な受賞歴等＞

- ・京都現代写真作家展 新鋭賞（令和3年）

＜主な活動等＞

【いけばな展示・披露】

- ・「旧七夕会池坊全国華道展」（池坊会館ほか／京都／平成24年～）
- ・「MOVING」（ジェイアール京都伊勢丹／令和4年）
- ・落合陽一氏がプロデュースするパビリオン「null²」の茶室でいけばな展示（大阪・関西万博／令和7年）
- ・「いけばなインターナショナル世界大会」参加（国立京都国際会館／令和7年）

【写真展示、写真集】

- ・「一粒の砂 記憶ひかり」（日本橋三越本店／東京／令和6年）
- ・『よい使い手 よい作り手』（山代印刷株式会社出版部／令和7年）
- ・「京都駅ビル芸術祭」（京都駅ビル烏丸小路広場／令和7年）
- ・「池坊専宗写真展」（池坊短期大学／京都／令和7年）

【連載】

- ・「現代のことば」（京都新聞／令和4～7年）
- ・「ひとつのレンズ、花ふたり」（『25ans』（ハースト婦人画報社）／令和6～7年）
- ・「花ノ風物」（『目の眼』（目の眼）／令和6年～）

【ラジオ】

- ・「池坊専宗の団子より花」パーソナリティ（ラジオ日本／令和4年～）

＜京都市との関わり＞

- ・京都市未来共創チーム会議委員（令和6年～）
- ・京都文化芸術都市創生審議会・政策部会委員（令和7年～）

＜代表作等＞



《さくら》(令和6年)



写真：池坊専宗

写真集『よい使い手 よい作り手』より（令和7年）

江戸 聖一郎

えど せいいちろう (44歳)
洋楽 (フルート) / 沖縄県那覇市



【功績】

京都市立芸術大学音楽学部管打楽専攻卒業後、フランスに渡りオールネイ・スー・ボワ音楽学校にて世界的に活躍するフルート奏者のパトリック・ガロワ氏に師事し、同校を審査員満場一致の一等賞を得て卒業。帰国後、京都市立芸術大学大学院音楽研究科音楽専攻博士（後期）課程器楽領域修了。

数々の国際コンクールを制した多彩な表現力と確かな実績で周囲から厚い信頼を得ており、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団フルート奏者として数多くの公演に出演するとともに、京都市交響楽団をはじめ他楽団への客演を重ねている。

また、打楽器やギター奏者とのデュオ、フルート奏者とのアンサンブルのほか、大阪音楽大学や沖縄県立芸術大学にて講師を務めて後進の指導に当たるなど、多岐にわたる活動を展開している。

＜略歴＞

- ・兵庫県出身
- ・京都市立芸術大学音楽学部管打楽専攻卒業（平成16年）
- ・フランス国立オールネイ・スー・ボワ音楽学校卒業（平成18年）
- ・京都市立芸術大学大学院音楽研究科音楽専攻博士（後期）課程器楽領域修了（平成27年）
- ・打楽器奏者の安永早絵子氏とデュオユニット「エピスリー」結成（平成27年）
- ・京都市立芸術大学非常勤講師（令和元～2年）

＜現在＞

- ・ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団フルート奏者
- ・「アンサンブル・リュネット」メンバー
- ・大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部非常勤講師
- ・アジア・フルート連盟理事
- ・沖縄県立芸術大学専任講師

＜主な受賞歴等＞

- ・ピカルディー音楽コンクール1等賞（平成16年）
- ・ル・パルナス・フルートコンクール第1位（平成17年）
- ・UFAM国際音楽コンクール1等賞（平成17年）
- ・日本フルートコンヴェンションコンクール
(アンサンブル・アワード部門) 第1位（平成25年）
※アンサンブル・リュネットとして
- ・伊丹市芸術家協会新人賞（平成28年）

＜主な活動等＞

京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、兵庫芸術文化センター管弦楽団など、数多くのオーケストラへ客演

【公演】

- ・深川秀夫版「白鳥の湖」全幕公演（ロームシアター京都／平成28年）
- ・「江戸聖一郎×大萩康司 デュオ・リサイタル」（兵庫県立芸術文化センター／令和3年）
- ・Kyoto Music Caravan 2023「フルートオーケストラコンサート」（仁和寺／京都／令和5年）
- ・「関西フルートオーケストラ 第38回定期演奏会」（京都府立府民ホールアルティ／令和6年）
- ・「アンサンブル・リュネット 第15回定期公演」（ムラマツリサイタルホール新大阪／令和7年）

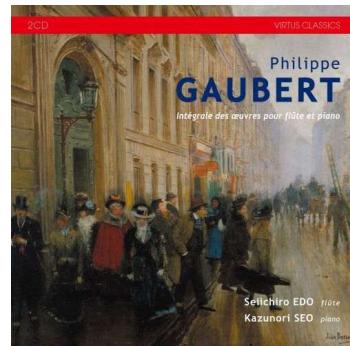
【CD】

- ・「DOTS AND LINES」（令和3年）
- ・「江戸聖一郎 フルート・リサイタル～パリの風～」（令和3年）
- ・「ゴーベール：フルートとピアノのための作品全集」（令和6年）

＜代表作等＞



「江戸聖一郎×大萩康司 デュオ・リサイタル」
(兵庫県立芸術文化センター／令和3年)



「ゴーベール：フルートとピアノのための作品全集」
(令和6年)

年齢は受賞日（令和8年2月5日）現在

黒川 岳

くろかわ がく (31歳)

現代美術・彫刻／京都市左京区



【功績】

東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業後、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。音楽と彫刻という異なる分野を学んだ経験から、物体や環境と身体との関係性に着目し、自身が出会った様々な対象に直接触れることで生まれる音・形・動きなどを探求。それらを素材として、音や映像を用いたインсталレーション、触れながら鑑賞する彫刻作品、造形物を取り入れたパフォーマンス作品など、形式にとらわれない作品を制作・発表し、鑑賞者に日常とは一線を画す新たな世界観を提示している。

近年は音楽家やダンサーなど多種多様なアーティストとの創作、舞台美術やイベントのディレクターなど活動の幅を広げており、次世代を担う若手芸術家として、今後更なる活躍が期待されている。

＜略歴＞

- ・島根県出身
- ・東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業（平成28年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了（平成30年）
- ・京都市立芸術大学非常勤講師（平成30～令和6年）
- ・京都市立芸術大学客員研究員（令和6～7年）

＜主な受賞歴等＞

- ・京都市立芸術大学作品展 オリジン賞（平成29年）、大学院市長賞（平成30年）
- ・六甲ミーツ・アート 芸術散歩2018 公募大賞 準グランプリ（平成30年）
- ・京都市芸術文化特別奨励者（令和5年）

＜主な活動等＞

- ・「京芸 transmit program 2019」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／令和元年）
- ・【個展】「石の声を聴く」（MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w／京都／令和元年）
- ・「ARTISTS' FAIR KYOTO 2020」（京都新聞ビル／令和2年）
- ・「ニューミューテーション# 3 菊池和晃・黒川岳・柳瀬安里」（京都芸術センター／令和2年）
- ・【個展】「甕々の声」（アートラボあいち／令和3年）
- ・【個展】「奥の工場見学」（千丸屋京湯葉本店／京都／令和3年）
- ・「美しいHUG！」（八戸市美術館／青森／令和4～5年）
- ・「NEW INTIMACIES -WILD WILD WEST-」（Gallery PARC／京都／令和4年）
- ・【個展】「空と砂漠のエンパーダメイキングタイム」（FINCH ARTS／京都／令和5年）
- ・「高島屋×京都市立芸術大学 NEW VINTAGE 2.0」（京都高島屋／令和6年）
- ・「バグスクール2024：野性の都市」（BUG／東京／令和6～7年）
- ・【個展】「打ち出のこづち」（sharphardstrong／愛知／令和7年）
- ・「東京ビエンナーレ2025」（東叡山寛永寺、神谷氷店／東京／令和7年）
- ・金氏徹平とthe constructions「tower (UNIVERSITY)」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／令和8年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都芸術センター開設25周年記念事業「25」ディレクター（令和7年）

＜代表作等＞



写真：三浦知也

《甕々の声》(令和3年)



写真：鈴木陽介 提供：八戸市美術館

《石を聴く》(令和4年)

新野 洋

しんの ひろし (46歳)

現代美術／京都府南山城村



【功績】

京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）洋画科卒業後、恩師の牛島義弘氏の影響でオーストリアに留学し、ウィーン美術アカデミー修了。

幼少期より身近な里山の草花や昆虫などの自然に興味を抱く。大学では昆虫をモチーフに絵画を制作し、アカデミー在学中に自然物の造形や色彩への関心を深め、立体表現へと移行する。現在は京都府南部の自然豊かな環境下で、日々の観察を基に自然物を再構築し、実在しない“いきもの”を制作している。自然物と共に通する普遍性を探求しながら、自然の造形を凝縮して造り出された作品は、現実と空想の相反する世界観が表現されており、高い評価を受けている。

また、国内外の美術展にも多数出展し、意欲的に作品の発表を続けており、今後の活動が注目されている。

＜略歴＞

- ・京都府出身
- ・京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）洋画科卒業（平成15年）
- ・ウィーン美術アカデミー修了（平成20年）
- ・オーストリアに滞在し、制作活動を行う（平成20～22年）
- ・南山城村に制作拠点を移す（平成24年）

＜主な受賞歴等＞

- ・Art in the office 2012 CCC AWARDS（平成24年）

＜主な活動等＞

- ・【個展】「Insects」（SONGSONG／オーストリア／平成20年）
- ・【個展】「ふゆむしなつくさ」（TANADAピースギャラリー／京都／平成22年）
- ・【個展】「いきとし“いきもの”」（YOD Gallery、銀座三越／大阪、東京／平成23、24年）
- ・【個展】「幻想採集室」（YOD Gallery／大阪／平成26年）
- ・【個展】「Mikrokosmos↔Makrokosmos展」（軽井沢ニューアートミュージアム／長野／平成26年）
- ・「これ、すなわち生きものなり」（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA／滋賀／平成27年）
- ・【個展】「新野洋 個展」（Gallery Den mym／京都／平成28年）
- ・【個展】「APMoA Project, ARCH vol.19 新野洋 日月の江」（愛知県美術館／平成28年）
- ・「わたしとしぜんと」（瑞雲庵／京都／平成29年）
- ・【個展】「WUNDERKAMMER -森の思想-」（奈良 菩提書店／令和4年）
- ・「自然を創る」（ヤマザキマザック美術館／愛知／令和4年）
- ・【個展】「WUNDERKAMMER -野山の化(ばけ)学-」（YOD Gallery／大阪／令和4年）
- ・【個展】「Theater of Life - 34°44'N 136°01'E -」（AKI Gallery／台湾／令和6年）
- ・【個展】「Crystallization」（YOD Gallery／東京／令和7年）
- ・【個展】「茶木化蝶 -ちゃのきちょうどなる-」（アートスペース福寿園／京都／令和7年）
- ・「木津川アート2025」（けいはんな記念公園／京都／令和7年）

＜代表作等＞



©Hirokatsu Yamamoto

《Theater of Life - 34°44'N 136°01'E -》
(令和5年)



©Yosuke Tanaka

《2025.2.1,Kyoto.Japan》(令和7年)

清家 一斗

せいけ かずと (35歳)
映画（殺陣）／京都市西京区



【功績】

殺陣師である清家三彦氏の長男として京都市に生まれる。中学生のときに父の仕事ぶりを目の当たりにして殺陣に関心を持ち、大学卒業後の下積み時代に鍛錬を積み重ねて東映京都撮影所に脈々と受け継がれてきた殺陣の技術を体得し、28歳で殺陣師としてデビューを果たす。現在は同所の殺陣技師集団「東映剣会」の殺陣師を務める。

映画をはじめ、テレビドラマや舞台等で数多くの時代劇・現代劇の殺陣やアクションシーンを手掛け、その卓越した技術と豊富な経験で映画等の制作活動を支えている。また、日本アカデミー賞最優秀作品賞の「侍タイムスリッパー」や京都映画賞作品賞の「室町無頼」など、話題作の殺陣を次々に務める一方で、日々アリティと美しさの両立を追求し続けており、京都の映画文化の次代を担う存在として、今後更なる活躍が期待されている。

殺陣師

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・高校入学後から東映京都撮影所に通い、稽古を行う
- ・大阪経済大学卒業後、父・清家三彦氏の助手を1年、大部屋俳優として5年間にわたり修行
- ・殺陣師としてデビュー（平成30年）

＜現在＞

- ・東映京都撮影所「東映剣会」所属

＜主な受賞歴等＞

- ・京都府文化賞奨励賞（令和8年）

＜主な活動等＞

数多くの日本映画、時代劇、ドラマ、演劇、シアターなどで殺陣やアクション演出を務める

【殺陣・擬斗担当作品】

- ・宝塚歌劇団公演（平成24年～）
- ・テレビドラマ「科搜研の女」シリーズ（平成30年～）
- ・映画「破戒」（令和4年）
- ・映画「THE LEGEND & BUTTERFLY」（令和5年）
- ・テレビドラマ「鬼平犯科帳 本所・桜屋敷」（令和6年）
- ・映画「鬼平犯科帳 血闘」（令和6年）
- ・映画「侍タイムスリッパー」（令和6年）
- ・舞台「水戸黄門」（御園座／愛知／令和6年）
- ・映画「室町無頼」（令和7年）
- ・テレビドラマ「丹下左膳～大岡越前外伝～」（令和7年）
- ・映画「木挽町のあだ討ち」（令和8年）

＜京都市との関わり＞

- ・右京区学藝衆講座「太秦で学ぶ 映画と殺陣の世界」講師（右京区役所／令和8年）

＜代表作等＞



©未来映画社
映画「侍タイムスリッパー」
殺陣（令和6年）



©東映株式会社
映画「木挽町のあだ討ち」殺陣（令和8年）

田口 かおり

たぐち かおり (44歳)
学術（保存修復学）／東京都武蔵野市



【功績】

国際基督教大学教養学部を卒業後、イタリアに渡りフィレンツェ国際芸術大学絵画修復科を修了し、現地の修理工房にて修復技術を磨き研鑽を積む。帰国後は、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程を修了し、文部科学省卓越研究員などを経て、現在は同大学大学院の准教授として教壇に立つ。

絵画修復士として、損傷が大きかったクロード・モネの大作《睡蓮、柳の反映》を筆頭に、古典絵画から現代アートに至るまで数々の修復プロジェクトに関わるとともに、『保存修復の技法と思想』をはじめとする著作や研究論文を通じて、保存修復の意義や技術の普及活動にも取り組んでいる。さらには、国際シンポジウムを精力的に開催し、日本と諸外国との文化交流を図るなど、国内外の美術作品の保存修復活動に大きな影響を与えている。

＜略歴＞

- ・東京都出身
- ・国際基督教大学教養学部卒業（平成16年）
- ・フィレンツェ国際芸術大学絵画修復科修了（平成19年）
- ・修復士としてフィレンツェ市内の修理工房で絵画修復に従事（平成19～21年）
- ・京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了（平成26年）
- ・東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター研究員（平成26～28年）
- ・文部科学省卓越研究員（平成28～令和2年）
- ・東海大学創造科学技術研究機構情報技術センター特任講師（平成28～令和3年）
- ・東海大学教養学部芸術学科講師（令和3～4年）
- ・東海大学教養学部芸術学科准教授（令和4～5年）

＜現在＞

- ・京都大学大学院人間・環境学研究科准教授
- ・美学会西部会委員
- ・表象文化論学会編集委員

＜主な受賞歴等＞

- ・表象文化論学会賞 学会賞（平成28年）
（『保存修復の技法と思想—古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』（平凡社／平成27年））
- ・文化財保存修復学会 業績賞（令和7年）

＜主な活動等＞

【著書】

- ・『保存修復の技法と思想—古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』
(平凡社／平成27年、【改訂版】令和6年)
- ・『美学の辞典』(分担執筆／丸善出版／令和2年)
- ・『タイムライン—時間に触れるためのいくつかの方法』(共著／this and that／令和3年)
- ・『絵画を見る、絵画をなおす 保存修復の世界』(偕成社／令和6年)
- ・『どうやって美術品を守る？ 保存修復の世界をのぞいてみよう』(監訳／創元社／令和7年)

【講演】

- ・「鉛・埃・記憶—作品の『保存修復』がめざすもの」(福岡市美術館／令和7年)
- ・Intersections between Japanese and Italian Approaches to Conservation and Restoration: Ethics, Culture, and Contemporary Challenges (ブルーノ・ケスラー財団／イタリア／令和7年)

【展示】

- ・「のこすつなぐ よみがえる 小田原市民会館大ホール壁画の記憶」監修 (小田原三の丸ホール／神奈川／令和4年)
- ・「再考《少女と白鳥》 賐作を持つ美術館で賐作について考える」監修 (高知県立美術館／令和7年)

＜代表作等＞



『保存修復の技法と思想—古代芸術・ルネサンス絵画から現代アートまで』
(平凡社／平成27年、
【改訂版】令和6年)



「再考《少女と白鳥》 賐作を持つ美術館で賐作について考える」
(高知県立美術館／令和7年)

立川 吉笑

たてかわ きつしょう (41歳)

落語／東京都杉並区



【功績】

京都教育大学教育学部数学科教育専攻中退後、お笑い芸人を経て、26歳のときに立川談笑師に入門し、そのわずか1年5か月後には異例の早さで二ツ目に昇進する。その後も全国各地で数多くの高座や公演を重ねて技芸を磨き続け、NHK新人落語大賞を満点で優勝したほか、公推協杯全国若手落語家選手権でも大賞に輝き、誰もが認める若手落語家として令和7年には真打ちに昇進した。

古典落語の世界観の中で現代的なコントやギャグ漫画に近い笑いの感覚を表現した「擬古典」という手法により、次々に独自の創作落語を生み出す。革新的かつ独創的な展開や巧妙に散りばめられた言葉で構成された噺は、即座に観客の心を掴むとして高い評価を得ており、これからも立川流を牽引する存在として今後益々の活躍が期待されている。

本名 人羅 真樹 (ひとら まさき)

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・京都市立堀川高等学校自然探究科卒業（平成15年）
- ・京都教育大学教育学部数学科教育専攻中退（平成16年）
- ・立川談笑師に入門（平成22年）
- ・二ツ目昇進（平成24年）
- ・真打ち昇進（令和7年）

＜主な受賞歴等＞

- ・渋谷らくご大賞（令和3、4年）
- ・渋谷らくご創作大賞（令和3年）
- ・NHK新人落語大賞（令和4年）
- ・公推協杯全国若手落語家選手権 大賞（令和6年）

＜現在＞

- ・一般社団法人落語立川流所属
- ・創作話芸ユニット「ソーゾーシー」メンバー

＜主な活動等＞

【公演】

- ・「立川吉笑ひとり会」（ツギハギ荘／大阪／令和6年～）
- ・「立川吉笑 京都凱旋独演会2025 真打昇進記念」（ヒューリックホール京都／令和7年）
- ・「立川吉笑 真打昇進披露興行 in 高円寺」（座・高円寺／東京／令和7年）
- ・「ソーゾーシーTOUR2025 千秋楽」（中電ホール／愛知／令和7年）
- ・洛中らくご会「立川吉笑 真打昇進披露興行」（池坊短期大学／京都／令和7年）

【著書】

- ・『現在落語論』（毎日新聞出版／平成27年）
- ・『炎上するまくら』シリーズ（電子書籍）（中央公論新社／平成30、31、令和3～7年）

【CD】

- ・「ソーゾーシー 傑作選1」（令和3年）
- ・「ソーゾーシー 傑作選2」（令和5年）
- ・「立川吉笑 落語傑作選」（令和6年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都市自治記念式典オープニングにて落語披露（令和6年）

＜代表作等＞



©三嶋義秀

「立川吉笑 真打昇進披露興行
in 高円寺」（座・高円寺／
東京／令和7年）



©三嶋義秀

「ソーゾーシーTOUR2025 千秋楽」
(中電ホール／愛知／令和7年)

畠山 丑雄

はたけやま うしお (34歳)
文学(小説)／大阪府茨木市

©新潮社



【功績】

京都大学文学部人文学科卒業。
大学入試センター試験の問題で出会った堀江敏幸氏の著書『送り火』に心を動かされ、入学後から小説を読み始めて次第に執筆にも取り組み、平成27年に「地の底の記憶」で文藝賞を受賞して作家デビューを果たす。
現実的な日常と非現実的な幻想を融合したマジックリアリズム的手法や高強度を持つ文体から、人間の心の奥底に沈む静かな感情を確かな筆致で描き出した純文学作品は高く評価されている。令和7年、自身の仕事に着想を得た『改元』が三島由紀夫賞の候補作に選出されると、翌8年には「叫び」で、日本で最も栄誉ある文学賞の一つとして知られる芥川龍之介賞を受賞。新進気鋭の若手小説家として一躍注目を集めしており、今後益々の活躍が期待されている。

＜略歴＞

- ・大阪府出身
- ・京都大学在学中に「地の底の記憶」で文藝賞を受賞しデビュー（平成27年）
- ・京都大学文学部人文学科卒業（平成30年）

＜主な受賞歴等＞

- ・文藝賞（平成27年）（「地の底の記憶」）
- ・芥川龍之介賞（令和8年）（「叫び」）

＜主な活動等＞

【書籍】

- ・『地の底の記憶』（河出書房新社／平成27年）
- ・『改元』（石原書房／令和6年）
- ・『叫び』（新潮社／令和8年）

【小説創作】

- ・「先生と私」（『群像6月号』／講談社／令和元年）
- ・「とにかく大きい洪庵先生」（anon press／令和5年）
- ・「パネンカ」（anon press／令和7年）
- ・「Anarchy in the Eurasia」（anon press／令和7年）

【エッセイ】

- ・「ムーンライト伝説」（『群像10月号』／講談社／平成29年）
- ・「家を渡る」（『文學界12月号』／文藝春秋／平成29年）

【書評】

- ・磯崎憲一郎『日本蒙昧前史』（『文藝秋季号』／河出書房新社／令和2年）
- ・円城塔『去年、本能寺で』（『新潮8月号』／新潮社／令和7年）

＜代表作等＞



『改元』（石原書房／令和6年）



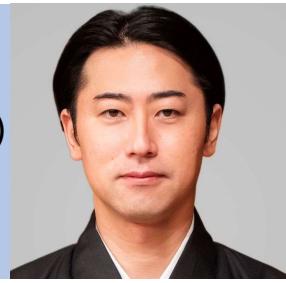
『叫び』（新潮社／令和8年）

十四世 林 喜右衛門

はやし きえもん (46歳)

能楽／京都市左京区

©人見 淳



【功績】

能楽師の十三世林喜右衛門氏の長男として京都市に生まれる。幼少期から父に師事し、3歳のときに「鞍馬天狗」で初舞台を踏む。その後、二十六世觀世宗家觀世清和師にも師事し、平成24年に独立披露能「道成寺」を披いたほか、これまでに「乱」「石橋」「翁」「望月」「安宅」を披く。令和7年には大曲「卒都婆小町」を披き、十四世林喜右衛門を襲名。

京都の謡文化をつないできた京觀世五軒家で唯一残る林喜右衛門家の伝統と高度な技を継承しつつ、華道や現代美術、オペラなど多彩なジャンルと積極的にコラボレーションを行い、時代に即した新たな能楽の形を探求している。また、日本の古典芸能の魅力を世界に広げるため、海外公演に出演するほか、謡や仕舞の指南、レクチャーや体験講座を行うなど、国内外で能楽の普及活動にも力を注いでいる。林喜右衛門家の当主として今後の活動が注目されている。

本名 林 宗一郎 (はやし そういちろう)

観世流シテ方 林喜右衛門家 十四代当主

<略歴>

- ・京都市出身
- ・父・十三世林喜右衛門師及び二十六世觀世宗家・觀世清和師に師事
- ・能「鞍馬天狗」にて初舞台（昭和57年）
- ・独立（平成23年）
- ・能楽自主企画公演「宗一郎の会」を発足（平成25年）
- ・觀世流職分認定（令和4年）
- ・十四世 林喜右衛門を襲名（令和7年）

<現在>

- ・林能楽会代表
- ・林定期能楽会代表
- ・一般社団法人日本能楽会会員
- ・公益社団法人能楽協会会員
- ・公益社団法人京都觀世会理事
- ・一般社団法人京都能楽会会員

<主な受賞歴等>

- ・京都市芸術文化特別奨励者（平成26年）
- ・重要無形文化財保持者（総合認定）（令和2年）
- ・京都府文化賞奨励賞（令和6年）

<主な活動等>

【指導】

- ・京都・東京・岡山・鳥取に稽古場を持ち、謡と仕舞を指南

【公演】

- ・「宗一郎の会」（京都觀世会館ほか／平成25年～）
- ・「能あそび」（有斐斎弘道館／京都／平成25年～）
- ・ワールドプレミア「利休-江之浦」（ジャパン・ソサエティー／アメリカ／平成29年）
- ・「KYOTO de petit能」（京都觀世会館／令和3年～）
- ・「SHITEシテ。」（京都觀世会館／令和4年～）※大正9年から100年以上続いてきた「林定期能」を改称
- ・「創始四百年記念 十四世林喜右衛門襲名披露能」（京都觀世会館、觀世能楽堂ほか／京都、東京ほか／令和7年）

<京都市との関わり>

- ・京都觀光おもてなし大使（平成27～令和4年）

<代表作等>



©人見 淳

創始四百年記念
十四世林喜右衛門
襲名披露能「卒都婆小町」
(令和7年)

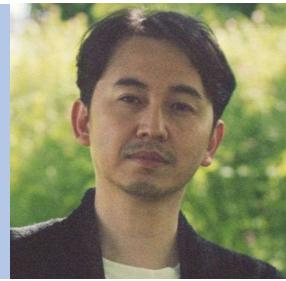


「創始四百年記念
十四世林喜右衛門
襲名披露能」
(京都觀世会館／
令和7年)

京都市芸術新人賞

原 摩利彦

はら まりひこ (42歳)
現代音楽／京都市上京区



【功績】

京都大学教育学部教育科学科卒業後、同大学大学院教育学研究科修士課程中退。
中学生のときに坂本龍一氏のコンサートを観て感銘を受けたことがきっかけで音楽家を志し、京都大学在学中に本格的に音楽活動を始める。2010年代に「ダムタイプ」の高谷史郎氏の作品に参加して注目を集めると、以降は憧れ続けた坂本龍一氏をはじめ、国内外で活躍する著名なアーティストと次々に共演・共同制作を行い、数々の音楽作品を世に送り出す。現在も京都を拠点に、ソロだけではなく「ダムタイプ」のメンバーとしても活動している。
令和7年には、映画「国宝」の音楽を手掛けて日本レコード大賞特別賞を受賞するなど、静けさの中にある強さを軸に、ピアノ、自然音、電子音などの多様な音を絶妙に調和させた独自の音楽は、国内外から高く評価されている。

＜略歴＞

- ・大阪府出身
- ・京都大学教育学部教育科学科卒業（平成22年）
- ・アーティスト・コレクティブ「ダムタイプ」参加（平成24年）
- ・京都大学大学院教育学研究科修士課程中退（平成26年）

＜現在＞

- ・MH Studio株式会社 代表取締役
- ・ダムタイプメンバー

＜主な受賞歴等＞

- ・京都府文化賞奨励賞（令和4年）
- ・日本レコード大賞 特別賞（映画「国宝」／令和7年）

＜主な活動等＞

【アルバム・EP】

- ・「PASSION」（令和2年）
- ・「ALL PEOPLE IS NICE」（令和3年）

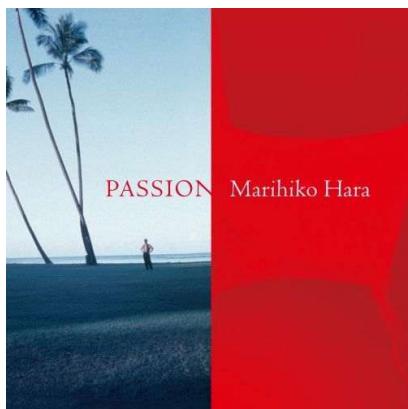
【サウンドトラック】

- ・映画「流浪の月」（令和4年）
- ・舞台「兎、波を走る」（令和5年）
- ・映画「国宝」（令和7年）
- ・映画「鹿の国」（令和7年）

【楽曲提供、公演】

- ・舞台「CHROMA」（平成24年）
- ・ダミアン・ジャレ+名和晃平「VESSEL」（平成28年）※坂本龍一氏と共同制作
- ・ダムタイプ「2020」（令和2年）
- ・「東京2020夏季オリンピック」（令和3年）※開会式における森山未來氏のダンスパフォーマンスへの楽曲提供
- ・舞台「FORMULA」（令和4年）
- ・舞台「彼岸より」（令和6年）
- ・「OTOBUTAI」出演、音楽監督（法隆寺、醍醐寺／奈良、京都／令和6、7年）
- ・「Marihiko Hara Piano Concert 2025」（京都文化博物館／令和7年）

＜代表作等＞



「PASSION」（令和2年）



映画「国宝」サウンドトラック（令和7年）

年齢は受賞日（令和8年2月5日）現在

村松 稔之

むらまつ としゆき (37歳)

洋楽(声楽)／京都市左京区



【功績】

東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程独唱科を首席で修了後、イタリアに渡りノヴァーラ.G.カンテッリ音楽院古楽声楽科にてロベルト・バルコニ氏に師事し、研鑽を積む。従来の領域にとどまらず古楽から現代音楽まで幅広いレパートリーを持つ天性のカウンターテナーとして、高音域を自在に操り、透明感溢れる伸びやかな歌声で聴衆を魅了している。

これまでに国内の主要なオーケストラと共に演じ、バッハの「カンタータ」や「ヨハネ受難曲」、ヘンデルの「メサイア」、モーツアルトの「レクイエム」などでソリストを務める一方、オペラでは「狂おしき真夏の一日」、「フィガロの結婚」、「ジュリオ・チェーザレ」などで重要な役どころを好演。さらには全国各地でコンサートやリサイタルを積極的に開催しており、今日本で注目されるカウンターテナーとして、今後益々の活躍が期待されている。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・京都市立音楽高等学校（現 京都市立京都堀川音楽高等学校）卒業（平成19年）
- ・東京藝術大学音楽学部声楽科卒業（平成23年）
- ・東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程独唱科を首席にて修了（平成27年）

＜主な受賞歴等＞

- ・東京藝術大学 アカンサス音楽賞、同声会賞（平成23年）、大学院アカンサス音楽賞（平成27年）
- ・ABC新オーディション最優秀音楽賞（平成23年）
- ・松方音楽賞奨励賞（平成24年）
- ・千葉市芸術文化新人賞（平成26年）
- ・青山音楽賞新人賞（平成27年）
- ・東京音楽コンクール 第3位（平成27年）
- ・京都市芸術文化特別奨励者（平成31年）

＜主な活動等＞

【コンサート、リサイタル】

- ・村松稔之カウンターテナーリサイタル「じしゅコン」（東京文化会館ほか／東京／令和4、5、7年）
- ・「小堀勇介×村松稔之 デュオコンサート」（京都コンサートホール／令和5年）
- ・「村松稔之カウンターテナーリサイタル」
(青山音楽記念館バロックザール、京都府立府民ホールアルティ／京都／令和5～6年)
- ・「若きオペラ歌手たちの饗宴」（豊洲シビックセンター／東京／令和6年）
- ・「愛と平和のチャリティーコンサート2025」（愛知県芸術劇場ほか／愛知ほか／令和7年）
- ・ヘンデル作曲・オラトリオ「時と悟りの勝利」（兵庫県立芸術文化センター／令和7年）

【オペラ】

- ・「狂おしき真夏の一日」ユウキ役（東京文化会館／平成29年）
- ・「『フィガロの結婚』～庭師は見た！～」ケルビーノ役（東京芸術劇場ほか／東京ほか／平成30、令和2年）
- ・「ジュリオ・チェーザレ」ニレーノ役（新国立劇場／東京／令和4年）
- ・「平家物語－平清盛－」源義経/牛若丸役（ソニックシティ／埼玉／令和7年）

【CD】

- ・「小さな空 武満徹ソング・ブック」（令和4年）

＜代表作等＞



「ジュリオ・チェーザレ」
ニレーノ役
(新国立劇場／東京／
令和4年)

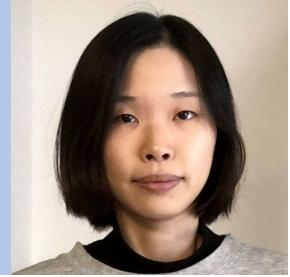


「平家物語－平清盛－」
源義経/牛若丸役
(ソニックシティ／埼玉／
令和7年)

山部 杏奈

やまべ あんな (29歳)

日本画／京都市左京区



【功績】

京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画領域修了。
画家である山部泰司氏を父に持ち、大学で本格的に日本画を学び始め、現在は京都を拠点として麻布に日本画材を用いた絵画制作に取り組んでいる。
日々の生活の中で最も身近な場所と捉える自宅の窓辺の風景を主なモチーフとし、光、温度、空気などの諸条件により、その瞬間ごとに豊かな奥行きや広がりが生まれる空間を平面の中に表現することを志向する。瑞々しい感性に加え、独自性のある技法や表現により描き出される作品は、これまでの日本画にはない新しい世界観が表現されているとして高い評価を受けており、日本画の新たな可能性を追求する若手日本画家として、今後更なる活躍が期待されている。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・京都市立芸術大学美術学部日本画専攻卒業（平成31年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画領域修了（令和3年）

＜主な受賞歴等＞

- ・京都市立芸術大学作品展 市長賞（平成31年）、大学院市長賞（令和3年）
- ・京都 日本画新展 奨励賞・京都市長賞（令和4年）、大賞（令和6年）

＜主な活動等＞

- ・【個展】「-space-」(ALC Library & Gallery／京都／令和元年)
- ・【個展】「Eucalyptus-Eucalyptus」(ALC Library & Gallery／京都／令和2年)
- ・【個展】「Acacia」(LADS GALLERY／大阪／令和3年)
- ・【個展】「Abend」(ギャラリー恵風／京都／令和3年)
- ・「京都 日本画新展」(美術館「えき」KYOTO／令和4、6年)
- ・「贈りもの展」(ギャラリー恵風／京都／令和4～5年)
- ・【個展】「テーブル・パーク」(ギャラリー恵風／京都／令和4年)
- ・【個展】「ルーム（2023）」(LADS GALLERY／大阪／令和5年)
- ・「心地の良い場所－京都 日本画新展入賞者展－」(京セラギャラリー／京都／令和6年)
- ・【個展】「画廊からの発言-新世代への視点2024」(GalleryQ／東京／令和6年)
- ・「Art for Gift 2024」(梅軒画廊／京都／令和6年)
- ・【個展】「光と部屋」(ギャラリー恵風／京都／令和6年)
- ・「窓と山水 光と時間の表現」(PORT ART&DESIGN TSUYAMA／岡山／令和7年)
- ・「京都日本画新展 受賞者三人展」(京都高島屋／令和7年)
- ・【個展】「窓辺に集まるものたち」(LADS GALLERY／大阪／令和7年)
- ・「工芸のいまのかたち」(京都アンプリチュード／令和7年)
- ・「ART LOUNGE PROJECT #7 : IT IS ALIVE!」(LE METTE ADELINNE／岡山／令和7年)

＜代表作等＞



《ある部屋の光》(令和5年)

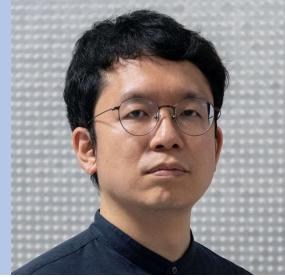


《目を閉じるように》(令和7年)

山本 雄教 やまもと ゆうきょう (38歳)

日本画・現代美術／京都市伏見区

©守屋 友樹

**【功績】**

京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）大学院修士課程ペインティング領域修了。高校生のときに、次世代の日本画を牽引する存在として活躍されていた画家の、枠にとらわれない制作過程に触れて感銘を受け、大学で本格的に日本画を学ぶ。日本画家の安田鞆彦氏の言葉「一枚の葉っぱが手に入れば宇宙全体が手に入る」を制作指針に据え、伝統的な日本画の技法を応用しながら、ブルーシート、米粒、硬貨など日常見慣れた身近な素材を用いて平面作品からインスタレーション作品まで幅広く手掛ける。その独創的な表現手法で、鑑賞者にミクロとマクロを行き来する感覚や美術作品が持つ普遍的な価値を提示してきた作品は、これまでに数々の賞を受賞するなど高い評価を受けている。現在も意欲的に作品の制作や発表を続けており、今後の活動が注目されている。

<略歴>

- ・京都府出身
- ・成安造形大学美術領域日本画クラス卒業（平成22年）
- ・成安造形大学研究生修了（平成23年）
- ・京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）大学院修士課程ペインティング領域修了（平成25年）

<現在>

- ・瓜生山学園京都芸術大学通信教育部日本画コース専任講師

<主な受賞歴等>

- ・ART AWARD NEXT2012 Vol.2 審査員賞（平成24年）
- ・「京都府美術工芸新鋭展 2012京都美術・工芸ビエンナーレ」公募部門 大賞（平成25年）
- ・美術新人賞デビュー2013 準グランプリ（平成25年）
- ・TERRADA ART AWARD 優秀賞（平成26年）
- ・ファインアート・ユニバーシアード U-35展 優秀賞（平成29年）
- ・トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展 審査員推奨（平成29年）、準大賞（令和3年）
- ・京都日本画新展2020 奨励賞・京都市長賞（令和2年）
- ・京都府文化賞奨励賞（令和7年）

<主な活動等>

- ・【個展】「連続していく対象」（ギャラリーはねうさぎ／京都／平成22年）
- ・【個展】「What is there : コメをみる※コメにみる」（gallery PARC／京都／平成25年）
- ・【個展】「How is this connected to that?」（つくるビル／京都／平成26年）
- ・「続 京都日本画新展」（美術館「えき」KYOTO／平成26、27年）
- ・【個展】「EXCHANGE」（ギャラリーマロニエ／京都／平成27年）
- ・【個展】「××××円の人」（ギャラリー恵風／京都／平成29年）
- ・【個展】「豊穣の空洞」（河岸ホテル／京都／令和3年）
- ・【個展】「仮想の換金（priceless museum）」（京都市京セラ美術館／令和5～6年）
- ・【個展】「塵も積もれば山となる」（大雅堂／京都／令和5年）
- ・「Migration」（Neptune Gallery／台湾／令和5～6年）
- ・【個展】「対面できない」（ギャラリー恵風／京都／令和6年）
- ・「white noise・white out・white fixing」（KUNST ARZT／京都／令和6年）
- ・「Skeptically Curious : 価値の変成をめぐる複数の試み」（みずほ銀行京都支店／令和7年）
- ・【個展】「PAPER SHIT」（museum shop T／東京／令和7年）

<代表作等>

《Blue mountain》(令和5年) ©守屋 友樹

「仮想の換金 (priceless museum)」 ©守屋 友樹
展示風景（京都市京セラ美術館／令和5年）

明石 好中 あかし よしなか (82歳)

洋楽（指揮）／京都市右京区



【功績】

高校1年生のときに中学時代の同級生ら10人とベリヨースカ合唱団（現 京都シティーフィル合唱団）を設立し、立命館大学在学時に同合唱団の常任指揮者に就任する。専門的に指揮を学んだ経験がなかったため、京都市立音楽短期大学（現 京都市立芸術大学）の教授やプロの指揮者から個別指導を受け、研鑽を重ねて指揮法を習得。これまでに京都市交響楽団や関西フィルハーモニー管弦楽団などプロのオーケストラの指揮も務め、令和7年に62年間続けてきた京都シティーフィル合唱団の常任指揮者を引退するまで、指揮者として長きにわたり活躍した。

また、30年以上にわたり「サントリー1万人の第九」の合唱指導を務めたほか、アマデウス音楽研究所を主宰し、音楽企画制作、音楽教育にも携わるなど、京都を拠点に合唱音楽の普及や後進の育成に寄与した。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・中学時代の同級生ら10人とベリヨースカ合唱団（現 京都シティーフィル合唱団）を設立（昭和33年）
- ・ベリヨースカ合唱団常任指揮者（昭和38～令和7年）
- ・立命館大学経済学部卒業（昭和41年）
- ・声楽を植田治男氏、指揮法を伊吹新一氏、渡邊暁雄氏、山田一雄氏に師事
- ・京都西山コールアカデミー常任指揮者（平成3～25年）
- ・京都鴨川混声合唱団常任指揮者（平成11～令和元年）

＜現在＞

- ・アマデウス音楽研究所主宰
- ・京都シティーフィル合唱団相談役

＜主な受賞歴等＞

- ・京都音楽賞・地域活動部門賞（平成6年）

＜主な活動等＞

京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団などと共に管弦楽つき合唱作品を数多く指揮

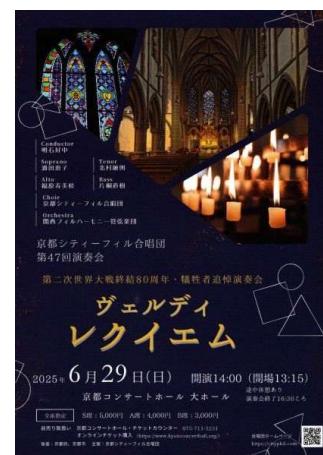
【公演】

- ・「第二次世界大戦犠牲者追悼演奏会」（Liederhalle／ドイツ／平成7年）
- ・「京都シティーフィル合唱団 第40回記念演奏会 第二次世界大戦終結70周年〈追悼〉」
(京都コンサートホール／平成27年)
- ・「京都シティーフィル合唱団 創立60周年記念 第43回演奏会」（京都コンサートホール／平成31年）
- ・「創立20周年記念 京都鴨川混声合唱団 第3回演奏会」（ロームシアター京都／令和元年）
- ・「京都シティーフィル合唱団 第46回演奏会」（京都コンサートホール／令和6年）
- ・「京都シティーフィル合唱団 第47回演奏会 第二次世界大戦終結80周年・犠牲者追悼演奏会」
(京都コンサートホール／令和7年) ※引退公演
- ・「Thanks Concert」（京都堀川音楽高等学校ホール／令和7年）

＜代表作等＞



京都シティーフィル合唱団の公演の様子



「京都シティーフィル合唱団
第47回演奏会」
(京都コンサートホール／
令和7年)

太田 達

おおた とおる (69歳)

食文化／京都市上京区



【功績】

島根大学農学部卒業後、有職菓子御調進所「老松」の四代目当主として家業の再建に尽力する一方で、菓子や和歌の文化を伝えるため、大学や専門学校で教壇に立つ。

京都工芸繊維大学大学院で、茶道の所作などに関する動作解析を行い、博士（工学）を取得。また、経営者としての知見をもとに事業承継の在り方を研究し、その成果を国内外で発表。これまでの実践や研究を踏まえ、食を通じた経営戦略を基軸に、分野横断的かつ新たな学問・教育の領域を探究し続けながら、後進の育成に力を注いでいる。

また、茶人として茶会や講座を開催するとともに、糺の森流鏑馬神事の保存、江戸時代の学問所址地に建てられた数寄屋建築の継承にも尽力するなど、伝統文化の普及・振興に多大な貢献を果たしている。

有職菓子御調進所「老松」四代目当主、茶人

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・島根大学農学部環境保全科卒業（昭和55年）
- ・「老松」四代目当主就任（昭和58年）
- ・京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科先端ファイブロ科学専攻博士課程修了（平成23年）
- ・文化庁文化交流使（令和2～4年）
- ・きょうとまるごとお茶の博覧会アドバイザー（令和6～7年）

＜現在＞

- ・有職菓子御調進所老松 主人
- ・公益財団法人有斐斎弘道館代表理事
- ・立命館大学食マネジメント学部教授
- ・平安女学院大学伝統文化研究センター客員教授
- ・京都芸術大学通信教育部食文化デザインコース非常勤講師
- ・同志社大学特別講師

＜主な受賞歴等＞

- ・伝統行事・伝統芸能功労者表彰（平成25年）
- ・文化庁長官表彰（令和7年）

＜主な活動等＞

【著書】

- ・『源氏物語と菓子』（剛書院／昭和58年）
- ・『懐石と菓子』（共著／淡交社／平成11年）
- ・『菓子の茶事を楽しむ』（淡交社／平成14年）
- ・『京の花街 ひと・わざ・まち』（編著／日本評論社／平成21年）
- ・『DVDで手ほどき 茶道のきほん「美しい作法」と「茶の湯」の楽しみ方（コツがわかる本！）』（監修／メイツ出版／平成26年）
- ・『平成のちゃかぽん 有斐斎弘道館 茶の湯歳時記』（共著／淡交社／平成29年）
- ・『伝統の食文化と地域創生』（昭和堂／令和7年）

【講座】

- ・「信仰からみる京都」（有斐斎弘道館ほか／京都ほか／平成28年～）
- ・「京菓子の成立」（京都府立京都学・歴彩館／令和4年）

【茶会】

- ・「アートの茶を追求する～白峯に捧ぐ」（直島ベネッセハウス／香川／平成17年）
- ・辻けい展「あか から あか へ」オープニングレセプション（国際芸術センター青森／平成18年）
- ・「ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア市内／イタリア／平成25、27、29、令和元年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都をつなぐ無形文化遺産審査会委員（平成25～31年）

＜代表作等＞



「サークル（善知鳥）」
(国際芸術センター青森／平成18年)



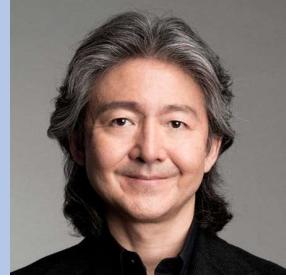
『伝統の食文化と地域創生』
(昭和堂／令和7年)

年齢は受賞日（令和8年2月5日）現在

大友 直人 おおとも なおと (67歳)

洋楽（指揮）／東京都港区

©Rowland Kirishima

**【功績】**

桐朋学園大学在学中にNHK交響楽団の指揮研究員となり、22歳で同楽団を指揮してデビューを果たす。桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業後、日本フィルハーモニー交響楽団や東京交響楽団の正指揮者を経て、平成13年から20年まで京都市交響楽団の第11代常任指揮者を務めるなど、これまでに数々のオーケストラで指揮者を歴任。現在も日本を代表する指揮者として、国内外の主要なオーケストラやオペラを指揮するほか、クラシックの枠を超えて多様なジャンルとのコラボレーションにより新たな音楽を発信するプロデューサーとしても活躍を続けている。また、京都市立芸術大学をはじめ多くの大学で後進の指導に当たるとともに、京都市ジュニアオーケストラや国際音楽セミナー「ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン」の創設など、長年にわたり日本のクラシック音楽の基盤整備に力を注ぎ、その振興に多大な貢献を果たした。

<略歴>

- ・東京都出身
- ・大学在学中にNHK交響楽団を指揮してデビュー（昭和55年）
- ・桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業（昭和56年）
- ・小澤征爾氏、森正氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏、岡部守弘氏らに師事
- ・日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者（昭和61～63年）
- ・大阪フィルハーモニー交響楽団専属指揮者（昭和61～平成元年）
- ・東京交響楽団正指揮者（平成3～16年）
- ・京都市交響楽団第11代常任指揮者（平成13～20年）
- ・東京文化会館初代音楽監督（平成16～24年）
- ・東京交響楽団常任指揮者（平成16～25年）
- ・群馬交響楽団音楽監督（平成25～31年）

<現在>

- ・京都市交響楽団桂冠指揮者
- ・東京交響楽団名譽客演指揮者
- ・琉球交響楽団音楽監督
- ・高崎芸術劇場芸術監督
- ・瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー
- ・京都市立芸術大学客員教授
- ・大阪芸術大学教授
- ・東邦音楽大学特任教授
- ・洗足学園大学客員教授
- ・<主な受賞歴等>
- ・渡邊暁雄音楽基金 音楽賞（平成12年）
- ・齋藤秀雄メモリアル基金賞（平成20年）
- ・ミュージック・ベンカラブ音楽賞 オーディオ部門 パッケージソフト賞（令和3年）

<主な活動等>**【公演】**

- ・「Hawaii Symphony Orchestra inaugural concert」（the Blaisdell Concert Hall／アメリカ／平成25年）
- ・「アジア オーケストラ ウィーク2024」（京都コンサートホール／令和6年）
- ・京都市交響楽団「スプリング・コンサート」（京都コンサートホール／令和7年）
- ・「東京交響楽団 特別演奏会 in バンコク・クアラルンプール」（Thailand Cultural Centre, Petronas Philharmonic Hall／タイ、マレーシア／令和7年）
- ・「GTシンフォニック・コンサートシリーズ オール・ブラームス・プログラム」（高崎芸術劇場／群馬／令和7年）
- ・「N響名曲コンサート2025」（サントリーホール／東京／令和7年）
- ・ロイヤル・バンコク交響楽団 & 東京交響楽団「フレンドシップ・コンサートwith新妻聖子」（ミューザリ川崎シンフォニーホール／神奈川／令和7年）
- ・「京都市ジュニアオーケストラ 創立20周年記念コンサート」（京都コンサートホール／令和8年）

【CD】

- ・「シベリウス：交響曲第2番」（平成19年）
- ・「ホルスト：組曲「惑星」」（平成25年）
- ・「萩森英明作曲：「沖縄交響歳時記」」（令和2年）
- ・「チャイコフスキイ：交響曲第6番「悲愴」」（令和6年）

<代表作等>©京都市
交響楽団©Hiroyuki
Yokoyama

京都市交響楽団「スプリング・コンサート」「GTシンフォニック・コンサートシリーズ オール・ブラームス・プログラム」
(京都コンサートホール／令和7年) (高崎芸術劇場／群馬／令和7年)

年齢は受賞日（令和8年2月5日）現在

六代目 上村 吉弥

かみむら きちや (70歳)

歌舞伎／東京都江戸川区



【功績】

歌舞伎と無縁の家庭で生まれ育つも幼少の頃より歌舞伎の衣装や舞台の独特的色彩美に魅了され、高校生のときに松嶋屋一門の舞台を鑑賞したことがきっかけとなり、付き人を経て片岡我當氏に入門する。片岡千次郎を名乗り「新吾十番勝負」で初舞台を踏み、以降も舞台稽古や弟子仲間との勉強会「若鮎の会（現 上方歌舞伎会）」などでたゆまぬ努力と研鑽を重ね、平成5年に上方歌舞伎の貴重な名跡である六代目上村吉弥を襲名。

上方のはんなりとした風情や色香を醸し出す女方として、花車方をはじめ女房、三婆など幅広い役柄を巧みに演じ分け、長年にわたり第一線で活躍を続ける一方で、京都南座での「歌舞伎鑑賞教室」に第1回から23年連続で出演して新たな観客層の開拓や後進の育成に尽力するなど、上方歌舞伎の再興と発展に多大な貢献を果たした。

本名 中東 佳之（なかひがし よしゆき）

＜略歴＞

- ・和歌山県出身
- ・片岡我當氏に入門（昭和48年）
- ・片岡千次郎を名乗り「新吾十番勝負」で初舞台（昭和48年）
- ・名題昇進（昭和62年）
- ・六代目上村吉弥を襲名（平成5年）

＜主な受賞歴等＞

- ・十三夜会賞 奨励賞（昭和61年）
- ・咲くやこの花賞（昭和61年）
- ・大阪府民劇場 奨励賞（昭和62年）
- ・国立劇場 奨励賞（平成9、18年）、優秀賞（平成19、24、29、令和元年）
- ・和歌山県文化奨励賞（平成9年）
- ・歌舞伎座賞（平成11年）
- ・重要無形文化財保持者（総合認定）（平成13年）
- ・松竹会長賞（平成14年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成29年）
- ・大阪市市民表彰（文化功労）（令和元年）
- ・大阪文化祭賞（令和4年）

＜現在＞

- ・公益社団法人日本俳優協会会員
- ・一般社団法人伝統歌舞伎保存会会員

＜主な活動等＞

- ・「吉例顔見世興行」（南座／京都／昭和48～令和7年）
- ・「歌舞伎鑑賞教室」（南座／京都／平成5～27年）
- ・自主公演「みよし会」（ドーンセンター、ワッパホール／大阪／平成13、14、19、20年）
- ・「システィーナ歌舞伎」（大塚国際美術館／徳島／平成21～24、26～28、30、31、令和2年）
- ・「吉例顔見世大歌舞伎」（歌舞伎座／東京／平成29年）
- ・自主公演「みよしや一門会」（大観能楽堂／大阪／令和2～4年）
- ・「坂東玉三郎 特別公演」（南座／京都／令和4、5年）
- ・「大阪国際文化芸術プロジェクト 立春歌舞伎特別公演」（大阪松竹座／令和6、7年）
- ・「三月花形歌舞伎」（南座／京都／令和6年）
- ・「三月大歌舞伎」（歌舞伎座／東京／令和7年）
- ・「大阪・関西万博開催記念 薫風歌舞伎特別公演」（大阪松竹座／令和7年）
- ・「大阪国際文化芸術プロジェクト 壽 初春歌舞伎特別公演」（大阪松竹座／令和8年）

＜代表作等＞



歌舞伎鑑賞教室
「京鹿子娘道成寺」
白拍子花子
(南座／京都／
平成21年)

撮影：田口真佐美



みよしや一門会
一人芝居「声」お葉
(大観能楽堂／
大阪／令和3年)

撮影：田口真佐美

茂山 あきら

しげやま あきら (73歳)

能楽／京都市下京区



【功績】

能楽師の二世茂山千之丞氏の長男として京都市に生まれる。幼少期より父及び祖父の三世茂山千作氏に師事し、3歳のときに「以呂波」のシテで初舞台を踏む。以降も芸道に精進し続け、「三番三」「釣狐」「花子」を披く。現在は「NOHO（能法）劇団」を主宰するとともに、演出家としてオペラ、新劇、パフォーマンスなどの企画・構成・演出も手掛ける。

これまでに新たな狂言の可能性を追求する「花形狂言会」、狂言と落語の伝統芸能を組み合わせて上方文化を広める活動に取り組む「お米とお豆腐」を発足したほか、千年振りに復曲された「袈裟求」や新作狂言の公演など、狂言の大衆化に力を注いできた。また、京都能楽会常務理事や京都市芸術文化協会理事、THEATRE E9 KYOTO館長を務めるなど、能楽のみならず、京都の文化芸術の普及振興及び環境整備に多大な貢献を果たした。

本名 茂山 晃 (しげやま あきら)

狂言方大蔵流

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・父・故二世茂山千之丞氏及び祖父・故三世茂山千作氏に師事
- ・「以呂波」のシテで初舞台（昭和31年）
- ・狂言ユニット「花形狂言会」を結成（昭和51年）
- ・ジョナ・サルズ氏と「NOHO（能法）劇団」設立（昭和56年）
- ・狂言と落語のコラボレーションユニット「お米とお豆腐」発足（平成13年）

＜現在＞

- ・一般社団法人京都能楽会常務理事
- ・一般社団法人日本能楽会会員
- ・一般社団法人アーツシード京都理事
- ・THEATRE E9 KYOTO館長
- ・NOHO（能法）劇団主宰

＜主な受賞歴等＞

- ・京都市芸術新人賞（平成4年）
- ・重要無形文化財保持者（総合認定）（平成10年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成25年）

＜主な活動等＞

自身が出演する公演のほか、演出家としてオペラ、新劇、新作狂言、パフォーマンスなどの企画・構成・演出も手掛ける

【公演】

- ・「茂山狂言・笑の収穫祭」（金剛能楽堂／京都／昭和42年～）
- ・「初笑いおやこ狂言会」（金剛能楽堂、大江能楽堂／京都／平成元年～）
- ・落語と狂言の会「お米とお豆腐」（セルリアンタワー能楽堂、金剛能楽堂／東京、京都／令和2年）
- ・能法劇団公演「雨の中、傘の下」（大江能楽堂／京都／令和6年）

【著書】

- ・『京都の震』（KKベストセラーズ／平成9年）

＜京都市との関わり＞

- ・市民狂言会 出演
- ・公益財団法人京都市芸術文化協会理事（平成23～28、31年～）

＜代表作等＞



「濯ぎ川」



「拔殻」

杉浦 京子

すぎうら きょうこ (69歳)

花街文化／京都市東山区



【功績】

同志社大学文学部英文学科卒業後、創業300年以上の老舗お茶屋「一力亭」13代目主人に嫁ぎ、女将となる。「縁の下の力持ちであれ」という先代からの教えを受け継ぎ、裏方に徹してお客様と芸妓・舞妓の間を取り持ち、伝統的な伎芸を継承・洗練するうえで必要不可欠な場を提供するとともに、京都祇園の花街の伝統と格式を重んじ、深く細やかな心遣いである本物の「おもてなし」の精神を守り続けている。

花街の未来を担う芸妓・舞妓の減少に誰よりも心を碎き、長年にわたりその育成や環境整備に取り組む一方で、京都花街組合連合会会長や祇園 花街芸術資料館館長などの要職を歴任し、花街文化の普及振興に尽力するなど、京都に息づく花街文化を広く正しく発信し、次の世代に引き継ぐために重要な役割を果たしている。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・同志社大学文学部英文学科卒業（昭和54年）
- ・祇園の老舗茶屋「一力亭」の13代目主人に嫁ぎ、女将となる（昭和56年）

＜現在＞

- ・一力亭女将
- ・学校法人八坂女紅場学園理事長
- ・祇園新地甲部組合取締
- ・祇園 花街芸術資料館館長
- ・京都花街組合連合会会長
- ・公益財団法人京都伝統伎芸振興財団副理事長
- ・公益社団法人京都市観光協会理事
- ・八坂神社 責任役員

＜主な受賞歴等＞

- ・文化庁長官特別表彰（令和6年）※一力亭として

＜主な活動等＞

- ・創業300余年の老舗お茶屋「一力亭」の女将として、京都祇園の花街の伝統と格式を重んじ、おもてなしの精神を守り続けている
- ・明治5年に創始され、京都の春の風物詩として150余年の歴史を持つ舞踊公演「都をどり」では、主催する八坂女紅場学園の理事長として、総責任者を務める
- ・令和6年に祇園甲部歌舞練場の隣に開設された「祇園 花街芸術資料館」の館長を務め、芸妓・舞妓の衣装や小道具の常設展示、舞の鑑賞など、花街文化の発信及び普及振興に取り組む

【講演】

- ・「京都の美ー新たにつむぐ女性の感性ー」（池坊短期大学／京都／令和3年）
- ・「花街のしきたりと空間ー祇園甲部歌舞練場とお茶屋ー」（祇園甲部歌舞練場／京都／令和5年）
- ・「京都の伝統文化ー京都の文化をつむぐ心と美ー」（平安女学院大学／京都／令和6年）
- ・京都モダン建築祭アフタープログラム「花街の大劇場建築、スペシャルトーク」
(祇園甲部歌舞練場／京都／令和7年)

＜代表作等＞



一力亭（外観）



「都をどり」（祇園甲部歌舞練場京都／令和7年）

ひろい のぶこ

(74歳)

染織／京都市右京区



【功績】

京都市立芸術大学美術専攻科染織専攻修了後、同大学で講師や教授として長年にわたり教壇に立ち、染織技術の継承に尽力しながら、国内外の研究機関において研究員を歴任。現在は同大学の名誉教授である。

羊毛や絹、麻などの天然素材を中心に、紙、金属、貝、珊瑚など様々な素材を用いて、織る・組む・縫う・縮絨など多彩な技法により平面や立体、インスタレーションの作品を制作している。また、大学在学時から国内だけでなく、アジアや中南米など世界各地を訪れ、多種多様な染織品、道具類、素材などを収集し、作り手の視点から染織の調査研究に力を注いできた。国内外での展覧会や『旅する布』などの著作等を通じて広く発信を行ってきた研究成果は、学術的にも高く評価されており、染織文化の普及、魅力発信及び保存継承に多大な貢献を果たした。

＜略歴＞

- ・兵庫県出身
- ・京都市立芸術大学美術学部工芸科卒業（昭和50年）
- ・京都市立芸術大学美術専攻科染織専攻修了（昭和52年）
- ・京都市立芸術大学美術学部講師（昭和63～平成4年）
- ・文部省在外研究員（アメリカ・カンザス州立大学美術学部）（平成9～10年）
- ・京都市立芸術大学美術学部教授（平成15～29年）

＜現在＞

- ・京都市立芸術大学名誉教授
- ・京都府伝統と文化のものづくり産業振興審議会表彰等
審査部会専門委員

＜主な受賞歴等＞

- ・ベータ国際ビエンナーレ ベータプライズ大賞（昭和59年）
- ・京都府文化賞功労賞（令和4年）

＜主な活動等＞

【展覧会】

- ・「第1回ミチョアカン・ミニチュア・テキスタイル国際展 日本/メキシコ」（ミチョアカン文化会館／メキシコ／昭和57年）
- ・【個展】（ギャラリー16／京都／昭和52、62、平成16、17、令和5年）
- ・【個展】（ギャラリーギャラリー／京都／昭和57、62、平成元、8、22年）
- ・【個展】（デンボス市立ライトハウス美術館／オランダ／昭和61年）
- ・【個展】（ギャルリ・プス／東京／平成13、15、21、25年）
- ・「第12回国際タペストリー・トリエンナーレ」（Central Museum of Textiles／ポーランド／平成18年）
- ・【個展】（ギャラリー恵風／京都／平成20、26年）
- ・【個展】「旅する布たち—ひろいのぶこ展—」（京都市立芸術大学／平成29年）
- ・【個展】（Anna Leonowens Gallery／カナダ／平成30年）
- ・【個展】（Tenri Cultural Institute of New York／アメリカ／平成30年）
- ・「コレクションとの対話：6つの部屋」（京都市京セラ美術館／令和3年）
- ・「herstories－女性の視点でたどる美術史」（京都市立芸術大学／令和7年）
- ・「キュレトリアル・スタディズ17:日常の二重性—テキスタイルの表現からみる—」
(京都国立近代美術館／令和7～8年)

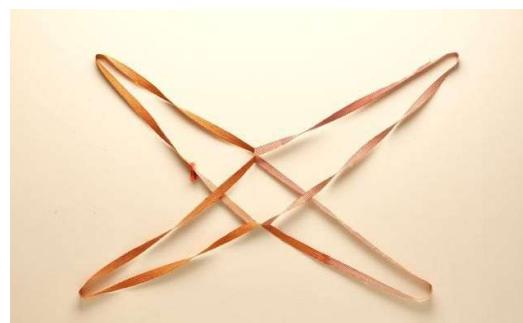
【著書】

- ・『織物の原風景 樹皮と草皮の布と機』（共著／紫紅社／平成11年）
- ・『旅する布』（美学出版／平成29年）

＜代表作等＞



《火の門》（令和3年）



《芒のある紐-1》（令和5年）

細川 周平

ほそかわ しゅうへい (70歳)

学術（音楽学）／京都市下京区



【功績】

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了後、東京工業大学社会理工学科助教授、国際日本文化研究センター教授などを務め、長年にわたり後進の育成に尽力。現在は京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長を務めており、国際日本文化研究センター名誉教授でもある。

1980年代にポピュラー音楽の理論的考察により頭角を現す。90年代から日系ブラジル移民文化の研究に注力し、音楽を皮切りに、その領域を映画、言葉、文学、芸能、故郷観にまで拡げた。その後、黒船来航から終戦まで約百年の大衆音楽史を全四巻に圧縮した『近代日本の音楽百年』をはじめとする著作や論文は学界外でも読まれ、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど、日本近代音楽史や日本移民史研究の国外連携に多大な貢献を果たした。

＜略歴＞

- ・大阪府に生まれ、神奈川県に育つ
- ・東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了（昭和63年）
- ・東京藝術大学楽理科助手（昭和63～平成3年）
- ・東京工業大学社会理工学科助教授（平成8～16年）
- ・国際日本文化研究センター助教授（平成16～18年）
- ・国際日本文化研究センター教授（平成18～令和2年）

＜主な受賞歴等＞

- ・読売文学賞 研究・翻訳賞（平成21年）
（『遠きにありてつくるもの—日系ブラジル人の思い・ことば・芸能』（みすず書房／平成20年））
- ・芸術選奨文部科学大臣賞（令和3年）
（『近代日本の音楽百年』（岩波書店／令和2年））
- ・ミュージック・ベンカラブ音楽賞 ポピュラー部門 著作出版物賞（令和3年）
（『近代日本の音楽百年』（岩波書店／令和2年））

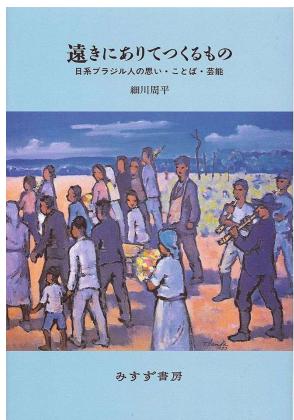
＜現在＞

- ・国際日本文化研究センター名誉教授
- ・京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長
- ・日本ポピュラー音楽学会会員

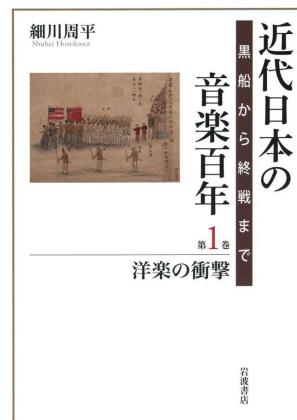
＜主な活動等＞

- ・『音楽の記号論』（朝日出版社／昭和56年）
- ・『ウォークマンの修辞学』（朝日出版社／昭和56年）
- ・『ノスタルジー大通り—ほがらかな旅の技術』（晶文社／平成元年）
- ・『レコードの美学』（勁草書房／平成2年）
- ・『サンバの国に演歌は流れる—音楽にみる日系ブラジル移民史』（中央公論新社／平成7年）
- ・『シネマ屋、ブラジルを行く—日系移民の郷愁とアイデンティティ』（新潮社／平成11年）
- ・『遠きにありてつくるもの—日系ブラジル人の思い・ことば・芸能』（みすず書房／平成20年）
- ・『民謡からみた世界音楽—うたの地脈を探る』（編著／ミネルヴァ書房／平成24年）
- ・『日系ブラジル移民文学』全2巻（みすず書房／平成24、25年）
- ・『日系文化を編み直す—歴史・文芸・接触』（編著／ミネルヴァ書房／平成29年）
- ・『近代日本の音楽百年』全4巻（岩波書店／令和2年）
- ・『音と耳から考える—歴史・身体・テクノロジー』（編著／アルテスパブリッシング／令和3年）
- ・『音盤を通してみる声の近代—日本、上海、朝鮮、台湾』（共著／スタイルノート／令和6年）

＜代表作等＞



『遠きにありてつくるもの
—日系ブラジル人の思い・
ことば・芸能』
(みすず書房／平成20年)



『近代日本の音楽百年
第1巻「洋楽の衝撃」』
(岩波書店／令和2年)

水島 博範

みずしま ひろのり (74歳)
芸術振興(音楽)／京都市北区



【功績】

京都府立大学入学を機に長崎から京都へ移り住み、当時はまだレコード喫茶店だった「磔磔」でアルバイトを始める。昭和54年、本格的にライブハウスとなった磔磔の社長に就任すると、年齢、ジャンル、有名無名を問わず、良い音楽と感じたミュージシャンやバンドのライブ公演を積極的に開催し、これまでに数多くの若手ミュージシャンを世に送り出すきっかけを作った。現在は次男の浩司氏に経営を引き継いでいる。

100年もの歴史を重ねた木造建築が醸し出す雰囲気や独特の音響、一体感が生まれるステージを生かして、唯一無二の空間を演出し、今や多くのミュージシャンやバンドの憧れの地でもある「磔磔」を50年以上守り続けており、京都のまちに根付く音楽文化の継承及び振興に大きく貢献した。

＜略歴＞

- ・長崎県出身
- ・京都府立大学社会福祉学部中退（昭和49年）
- ・レコード喫茶店だった下京区の「磔磔（たくたく）」でアルバイト勤務（昭和51～53年）
- ・本格的にライブハウスとなった磔磔の社長を務める（昭和54～平成25年）
- ・バンドグループ「SLICKERS」結成（昭和56年）
- ・バンドグループ「ポロリーズ」結成（平成18年）

＜現在＞

- ・SLICKERSドラマー
- ・ポロリーズドラマー

＜主な活動等＞

ライブハウス「磔磔」の社長として国内外のミュージシャンに演奏の場を提供

【単独ライブ】

- ・THE ALFEE（昭和50、55年）
- ・RCサクセション（昭和51年）
- ・BOØWY（昭和59年）
- ・ウィルコ・ジョンソン（昭和60年～）※以降多数出演
- ・THE BLUE HEARTS（昭和61、62年）
- ・アルバート・キング（平成元年）
- ・ウルフルズ（平成元年～）※以降多数出演
- ・スピッツ（平成元年）
- ・麗蘭（平成3年～）※以降多数出演
- ・エレファントカシマシ（平成6、16年）
- ・くるり（平成11年～）※以降多数出演
- ・細野晴臣（平成26、29年）

【その他ライブ】

- ・「磔磔50周年ライブ」（令和6年）※泉谷しげる、浅野忠信、斎藤和義等の有名アーティストが参加
- ・「MUSIC AWARDS JAPAN SOUND SCRAMBLE supported by京都芸術大学」（令和7年）※くるりが参加

＜代表作等＞



ライブハウス「磔磔」（外観）



©井上嘉和

「磔磔50周年ライブ」（写真：くるり）（令和6年）

令和7年度 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員

* 50 音順、敬称略

氏名	職業(役職)
大嶋 義実	フルート奏者、京都市立芸術大学名誉教授
小堀 純	編集者（演劇企画、評論、演劇書編集）
小山田 徹	京都市立芸術大学学長
篠原 資明	京都大学名誉教授
白石 知雄	音楽評論家、大阪音楽大学講師
田端 泰子	京都橘大学名誉教授
並木 誠士	京都工芸繊維大学名誉教授
濱崎 加奈子	公益財団法人有斐斎弘道館代表理事
広瀬 依子	追手門学院大学講師
森田 りえ子	日本画家、京都市立芸術大学客員教授
吉田 良比呂	京都市副市長

京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞 受賞者一覧（過去3年分）

年度	芸術新人賞		芸術振興賞	
	氏名	分野	氏名	分野
R6	沖澤 のどか	洋楽（指揮）	一般社団法人 アーツシード京都	芸術振興（舞台芸術）
	桂 二葉	落語	出原 司	版画
	酒井 研野	食文化	太田 耕人	学術（英米文学・演劇）
	清水 葉月	日本画	新内 志賀	邦楽（語り・三味線）
	杉 信太朗	能楽	特定非営利活動法人 日本料理アカデミー	食文化
	千本木 晴	染織・テキスタイル	細井 浩一	学術（文化資源学・ゲーム）
	西久松 友花	陶芸・現代美術	堀木 エリ子	和紙
	廣田 美乃	洋画	松尾 恵	芸術振興（現代美術）
	万城目 学	文学（小説）	本山 秀毅	洋楽（指揮）
	山内 朋樹	学術（美学）		
R5	山下 耕平	現代美術		
	厚地 朋子	洋画	池田 良則	洋画
	奥山 理子	アートプロデュース・芸術振興（共生社会）	大嶋 義実	洋楽（フルート）
	金 サジ	写真	太田垣 實	美術評論
	倉田 翠	舞踊	川嶋 啓子	芸術振興（染織・ファイバーアート）
	小西 雄大	食文化	下出 祐太郎	漆芸
	最果 タヒ	文学（詩）	世古口 瑞喜	洋舞
	佐野 曜	漆芸	中川 真	学術（アーツマネジメント・音楽）
	清水 徹太郎	洋楽（声楽）	浜田 泰介	日本画
	宮田 彩加	染織・刺繡	伏木 亨	学術（食文化）
R4	山本 麻紀子	現代美術		
	吉岡 里帆	映画・演劇（俳優）		
	芳木 麻里絵	版画・現代美術		
	宇高 徳成	能楽	柏原 えつとむ	現代美術
	西條 茜	陶芸・現代美術	川上 力三	陶彫
	澤田 華	現代美術	高尾 美智子	洋舞
	谷崎 由依	文学（小説）	田中 美鈴	洋楽（ピアノ）・芸術振興（音楽）
	千葉 雅也	文学（小説）・学術（哲学）	内藤 英治	染織
	中嶋 俊晴	洋楽（声楽）	中ノ堂 一信	学術（工芸文化史）
	藤井 俊治	洋画		
	細尾 真孝	染織		
	村山 春菜	日本画		
	森本 瑞生	洋楽（打楽器）		
	樂 吉左衛門（十六代）	陶芸		

（敬称略・五十音順）